

韓国・ソウル(寧越)郡と協定し、期待の文化交流スタート

写真文化の交流がきっかけとなって、韓国・カソウ(江原道)ソウル(寧越)郡と東川町の間で文化交流協定が実現しました。11月4日、農村環境改善センターで調印式が行われ、東川町とソウル(寧越)郡の友好交流が正式にスタートしました。



ソウル(寧越)郡は「今年、韓国との友好提携に続いて、今年になってうれしい。美しい自然の恵みを受けている共通性を元に、交流が発展してほしい」と縁組みを祝いました。

会場には駐日韓国札幌総領事館のユン・ソナ(尹善化)領事も駆けつけました。パク郡守、キム委員長、松岡市郎町長、浜辺啓町議会議長の4者が協定書にサインし、しっかりと手を握りました。

松岡町長は「写真文化、農業経済、水彫刻の文化の都は東川だ、と自信を持って言えるまちづくりを進めたい。協定を第一歩として、写真文化を絆とする提携を築いて友情と友好を進め、未来に向かって文化、教育にネットワーク

「トープ未来の森」の森づくりで植林始まる

10月30日、東3号北6線の町有林で、トープさつぼろ旭川地区本部(横澤秀明本部長)主催の「トープ未来(あした)の森づくり」植樹祭がありました。



生活協同組合トープさつぼろ(札幌)の企業社会貢献事業として取り組みスタートしました。同地の山林空き地約1畝に家具材として利用されているイタヤカエデ、ミズナラとナナカマドの3樹種2千本を5年間かけて植林し、緑を取り戻して二酸化炭素排出量を減らそうという取り組みです。

第三小の子供たちが絵画コンクールで一等入賞

(財)北海道青少年育成協会(札幌)主催の「道民家庭の日」絵画コンクール2010で、第三小(菅原敏光校長23人)の応募作品が7点も入賞しました。同小は同時に学校賞も受賞。11月16日同校で受賞伝達式を行ってみんなで快挙を喜びました。

矢澤由奈さん(2年)、岡村こゆきさん(3年)、駒井南奈さん(5年)、折田佳音さん(6年)の4人。小学生の部は全道で22人が入賞、うち同小の子供たちが優良賞3点を独占しました。



「東川町共生サロン」がいきいきセンター(旧町立病院)の隣接地に誕生しました

「東川町共生サロン」がいきいきセンター(旧町立病院)の隣接地に誕生しました。開設を記念して、11月7日、同所で先進地事例を紹介する講演とパネルディスカッションを開きました。



町が総事業費約9千200万円で建設しました。木造平屋建て延べ約240平方メートルの建物は、サロン機能を持つ集会室、研修室、食堂運営に必要な厨房施設、太陽熱発電設備などを備えています。

同施設の運営母体として発足した「NPO法人(特定非営利活動団体)ノーマライゼーションサポートセンター(こころりんく東川)」(片山寛美理事長)が町指定管理者として受託しました。

片山理事長は「障害があっても必要なサポートを受けながら、豊かな生活を送れる地域づくりを目指したい」とあいさつしました。障害者やその家族、高齢者が気軽に集える場、ともに生き

町民総合文化祭期間中、今年も旭川福祉専門学校

11月3日、農村環境改善センターで文化祭芸術発表会がありました。大正琴、日本舞踊、民謡、詩吟、カラオケ、東川小スクールバンド、東川中吹奏楽部の演奏、箏曲の調べなど、多彩な29演目の発表に満員の客席も大満足。



芸術発表会は、町民総合文化祭期間中(10月23日から11月18日まで開催)一番の見どころ。町内で活動する団体グループが一堂に出演し会場は満員に埋まりました。

会場では、今年も旭川福祉専門学校の数々を調理展示し、試食した皆さんに好評でした。期間中文化ギャラリーで文化作品展、老人保健センターで陶芸ろくろ体験、東川小では児童・生徒音楽の集いも開きました。

家畜農家が感謝して一年間の感謝

10月27日、忠別公園の家畜感謝の碑(南町2)で家畜感謝祭が行われました。年1回、かつて開拓の礎となった家畜に感謝をするものです。町畜産振興協議会々長の板谷重徳東川町農協組合長、浜辺啓町議会議長、肉牛、養鶏を

営む町内農家ら関係者約20人が出席しました。町内の畜産、養鶏農家は、現在数戸になっていますが、かつて町の農業発展を支え、今もお貢献してくれています。

